日本学術会議の主な国際活動

資料2

＜国際学術団体への加入＞

アジア学術会議(SCA)

「アジア域内での学術交流と協力を促進するための基盤を提供する」等の目的のため、アジア12カ国の学術会議等で構成。

国際科学会議(ICSU)

学問分野を代表する国際学術連合及び各国学術会議を束ねる科学者コミュニティの国際的「要」。30の国際学術連合、121カ国の学術会議が加入。

事務局:パリ

・アイ･エー･ピー（IAP）
・インターアカデミーカウンシル（IAC）

世界の科学アカデミーのフォーラム。科学的助言を提供。
104の国・地域の科学アカデミー等が加盟。

その他の国際学術団体

国際経済学協会(IEA)、
国際数学連合(IMU)、
国際天文学連合(IAU)、
国際純正・応用化学連合(IUPAC)、
国際農業工学会(CIGR)、
等
（計42団体）

事務局

加入

＜各国学術会議との交流＞

アジア12カ国の学術会議等

中国、インド、インドネシア、
大韓民国、マレーシア、モンゴル、
フィリピン、シンガポール、タイ、
ベトナム、バングラデシュ、
日本(日本学術会議)

Ｇ８学術会議への参加

カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、
ロシア、英国、アメリカ他

・毎年のG8サミットの議題に関して、G8各国等の学術会議と共同で提言（共同声明）を2005年から世界同日に公表。我が国では、会長から総理に手交

《最近例》
ﾌﾗﾝｽﾄﾞｰｳﾞｨﾙｻﾐｯﾄ（2011）
「科学を基盤とする世界の発展のための教育」、「水と健康」

その他の諸外国の学術会議との交流

〇学術研究に関する基本的、全般的な事項について、相手国科学者等との意見交換

〇二国間交流事業
・日加女性研究者交流事業
（特定のテーマについてﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ等を開催）
・アジア地域の各国における学術組織訪問
(ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ、ﾈﾊﾟｰﾙ、ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ、ｽﾘﾗﾝｶ、ﾌﾞｰﾀﾝ)

交流

日本学術会議(SCJ)

諸外国の学術会議と同様に、対外的に日本の科学者を代表する機関。

＜国際会議の開催＞

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議

毎年、世界各国から幅広い分野の優れた研究者の参加を得て、持続可能な社会の実現など、地球規模の課題解決のための国際会議を主催。

《最近例》
「ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙな持続性の構築に向けて-ｱｼﾞｱからの視点-」がテーマ
[2011年9月14～16日、京都]

主催

共同主催

学術関係国際会議
（年間７件）

我が国で開催される重要な学術関係国際会議について、閣議の了解を得て、関係の学術研究団体と共同で主催。

《2012》
〇第14回IACIS国際会議
〇第25回ﾆｭｰﾄﾘﾉ・宇宙物理国際会議
〇第26回国際計量生物学会議
〇第16回国際ｱﾙｺｰﾙ医学生物学会総会
〇第19回国際質量分析会議
〇第32回国際泌尿器科学会総会
〇第21回ﾊﾟﾀｰﾝ認識国際会議

参画

＜国際学術交流事業への参画＞

国際学術協力事業

「気候変動国際協同研究計画（WCRP)」など、各種の国際学術協力事業について、国内での実施計画の立案・調整、研究連絡を行っている。